

神根中だより

～自他共に認め合い学び合う
夢と笑顔と潤いのある学校～
令和7年6月号

学校教育目標
主体的に学び合い
心豊かで たくましい生徒



川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

小さな注意を積み重ねて

校長 寺田 和成

1学期の中間テストも終わり、いよいよ3年生は4日から修学旅行がスタートします。校外行事は、普段の生活では味わえない貴重な体験を通して、心を豊かにし、仲間とのコミュニケーションを深め、集団行動や社会性を身につける絶好の機会となります。校外行事を通して、学年や学級、そして生徒たち一人一人が一段と成長することを期待しています。

さて、そうした期待とは裏腹に、私は神根中学校に赴任して以来、とても心配していることがあります。それは自転車の乗り方についてです。本校は自転車通学の生徒が7割以上います。これは市内随一であり、それだけ毎日が危険と隣り合わせだということです。警察庁によると、令和6年中の自転車関連事故（自転車が第1または第2当事者の事故）の件数は全国で67,531件であり、1日あたりに換算すると約185件という数になります。これを多いと感じるか、少ないと感じるかですが、185もの命に関わると考えれば、私は十分すぎるほど多い数だと感じます。

自転車関連の重大事故の相手方はその約75%が自動車であり、そのうち出会い頭の衝突による事故が約55%と最も多く、このような事故では自転車側にも安全不確認や一時不停止等の違反が多く見受けられるそうです。自転車は、道路交通法では軽車両にあたる車の仲間ですので、交通事故の被害者になるだけでなく、人を傷つければ十分に加害者にもなり得ます。

以下は、全国の交通安全に関するコンクールで、優秀作に輝いた中学生の作文（抜粋）です。

ぶつかる！咄嗟に両手でブレーキを思い切り握った。少し後輪が滑ったが、無事に止まることができた。しかし、自動車との距離はわずか30cmほどしかなかった。私が走行していた車線が優先道路だったため、迷いなくペダルをこぎ続けた。だが、車の前を通り過ぎようとした瞬間、車が前進してきた。帰宅後、このことを家族に話した。私は自分に全く非がないと思っていたため擁護の言葉を待っていたが、両親と姉からはそれぞれ異なった視点から注意を受けた。両親からは「自転車側も自動車が出てくるかもしれないと考えて止まることができるようにしておかなければいけない」と指摘を受けた。姉からは「もし飛び出してきたのが自動車じゃなくて歩行者だったら、加害者になっていたかもしれないよ」と注意された。交通ルールを守っているつもりだったが、危険予測を怠り、交通事故にあうかもしれないことに気がついた。交通ルールを守っていても交通事故を起こしてしまう、巻き込まれてしまう可能性がある。加害者だけでなく被害者にもならないようにするためにはどうすればよいのか。このことについても家族で話し合った。出した結論が「自動車、自転車、歩行者などの立場に自分を置いて交通ルールを厳守し、常に注意を怠らないこと」だった。あの時、私は自分のことしか考えていなかったのではないだろうか。優先道路という交通ルールだけを妄信し、自動車が自分をどう認識しているのか想像していなかったのではないか。歩行者が飛び出してくるかもしれないという注意が足りなかったのではないか。改めて自分の視野の狭さを痛感し、反省した。これからは、交通社会の一員であることを自覚し、交通ルールを守るだけでなくさまざまな立場から危険予測をすることを常に心がけていきたい。この意識が広がり交通事故が減っていくことを願い、今日も自転車で学校に行く。

令和6年度 交通安全ファミリー作文コンクール（警察庁） 中学生の部 優秀作「誰もが交通社会の一員」（抜粋）

毎日の登下校中はもちろんのこと、今月は部活動の大会も始まります。自転車に乗る機会も増え、また梅雨の時期にもなりますので、いつも以上に危険が伴います。学校でも交通安全指導を繰り返し行っていますが、ぜひご家庭でもお子様への注意喚起をお願いいたします。

作文の筆者のように、危険予測の意識を高めていくことはとても大切なことです。そのためには、日頃からどのような運転をするべきかをイメージし、日々「小さな注意を積み重ねて」いくことが必要なのだと思います。命は一つです。命の大切さ、命の重みをしっかりと捉えて、私たち全員の手で交通事故を根絶していきましょう。